

町長発!

“がんばる”

トーク

町長 上川 元張



町内の地域食堂第1号として、10月12日に「池田食堂」が開店しました。地域食堂とは何か?取組の趣旨や背景などについて説明します。

10年ほど前、子どもの貧困が大きな社会問題となりました。親が仕事で忙しく、コンビニ弁当で晩御飯を一人で済ます子どもたちの存在は、社会に衝撃を与えました。地域の大人たちが、子どもの孤食をなくそうと、子ども食堂を立ち上げ、無料または安価で栄養のある食事と団らんの子どものために提供する取組が各地で始まり、社会の大きな共感を得て全国に広がりました。

一方で、孤食は子どもに限らず、特に中山間地域では独居世帯が増え、高齢者の孤食や地域からの孤立という問題もクローズアップされてきました。こうした中、子どもだけでなく誰もが使える食堂として始まったのが地域食堂です。地域の方々が世代を超えて一緒に食事をする、「食でつながる居場所づくり」として取り組まれ、県内では、特に鳥取市で先進的に設置が進んでいます。

本町では、今年度から池田地域に配置した集落支援員を中心に、月例で「おしゃべりランチ会」を開催するなど取組の下地がありますが、鳥取

市からのお誘いもあり、6月から地域食堂の検討を始めました。最初は役場の関係課と集落支援員で進めましたが、住民組織「池田くらす会」(会長・中村雅夫氏)が立ち上がり、官民連携の取組となりました。その間、先進地である河原の地域食堂の視察など鳥取市から運営面のご助言をいただきながら準備を進め、短期間での開店にこぎつけました。

食材は、食品会社、スーパーや農業団体など関係団体や個人からのご寄付を、麒麟のまち圏域の地域食堂や子ども食堂に無償で分配する仕組みを鳥取市で構築されており、「池田食堂」もこのネットワークに加えていただきました。調理は集落支援員と「池田くらす会」のボランティアスタッフが担当します。たくさん善意に支えられた取組です。

同じ食事も皆で食べると一層おいしいものです。「池田食堂」が、コミュニティニケーションの場、世代間交流の場、栄養改善の場、安否確認の場など、様々な役割を果たしながら、多くの皆さんに利用されることを願っています。そして、この取組が町内の他地域にも広がっていくことを期待しています。